



特集

布製の手作り絵本とおもちゃを届けて四半世紀
一針一針に思いを込めて 200冊 布の絵本「ゆめの会」

シリーズ「北海道の木と文化」⑤ … 日本樹木医会 北海道支部〔札幌市〕
——木を元気にする「木のお医者さん」木を守り後世へ伝える

ほっかいどうの本 … 『母・遠藤道子と私』 ……………… 北海道新聞社
『ともだち』 ……………… 茶廊法邑出版
『ウズベキスタン陶芸紀行 —よみがえるシルクロードの窯元—』 …… 共同文化社

特集

布製の手作り絵本とおもちやを 届けて四半世紀 一針一針に思いを込めて200冊 布の絵本「ゆめの会」

千歳市で活動する布の絵本「ゆめの会」は、手作りした布製の絵本や遊具を年一回、子どもたちが集まる市内の図書館や子育て支援センターなどに寄贈しています。2020年で会発足から25周年を迎え、製作した絵本は200冊に達しました。「子どもたちの笑顔と『ありがとっ』の一言が原動力」という佐藤美代子代表はじめ会員の皆さんに、会の特色や活動状況などを伺いました。

(取材日 1月28日、2月25日)

手作りのぬくもりを感じる
布絵本

「ゆめの会」が製作する布の絵本は、布地に絵を描いただけの単純なものではなく、縫い付けられた絵柄の人物や動物などを読者が引っ張ったり、めくったりすることで表情や手足の向きが変えられ、スナップやマジックテープなどで取り外すこともできる「しかけ絵本」と呼ばれるものです。物語の登場人物が動くこ

とで、想像の世界が広がります。

紙製のしかけ絵本は、丁寧に扱わないと折れ曲がり、破れてしまいます。

一方、布の絵本では、複雑な物は作れませんが、丈夫で柔らかく、ぶつかっても痛みがありません。手作りならではのぬくもりがあり、さまざまな素材の感触を楽しむと同時に、ボタン掛け、ファスナーの開け閉め、ひもを結ぶなどの動作が、遊びの中から育まれます。長年にわたり子どもたちに人気のある絵本の中から、著作権使用許可が

得られた『いないいないばあ』『ねないこだれだ』『だるまさんが』など約40タイトルを数冊ずつ製作し、2019年度で累計200冊となりました。

絵本以外にもプレイマットや輪投げ、かるた、釣りゲーム、着せ替え人形などの遊具を布で作っているほか、高齢者向けにはティッシュユカパー、手提げ袋などを製作。乳がん検診を啓発するピンクリボンも作ったことがあります。

代表の佐藤美代子さんは「自分たち



布の絵本「ゆめの会」の現役員。代表の佐藤美代子さん（手前右）、副代表の鷺尾みつ子さん（同中央）と大迫房子さん（奥左）、会計の堀京子さん（同右）と越前谷君代さん（同中央）、監査の久保朋子さん（手前左）

が楽しみ、その先に喜んで遊んでくれる子どもたちの笑顔がある。だから続けられたんだと思います」と語ります。

贈り続ける「宝物」たち

ゆめの会の作品は、無料で市内の施設に寄贈します。市立図書館、子育て支援センターの「ちとせっこどもセンター」「げんきっこセンター」「アリスセンター」、障がいのある子どもたちが利用する小学校の



千歳市役所第2庁舎に飾られた「ちとせくこうのはじまり」

特別支援学級、千歳市こども療育課などへ、毎年会員が届けています。贈り先は千歳市内ばかりではありません。2003年にはインドネシアに布の絵本と遊具を寄贈。2011年は東日本大震災の被災地へ、NPO法人を通じて布絵本と釣りゲームを届け、さらに2013年も手提げ袋やティッシュカバー、的当てゲームを贈りました。

市内の施設に作品を贈ると「新しい宝物がまた増えました」と感謝され、被災地の子どもからは「ほっかいどうのおかあさんありがとうございます。すこたのしかったです。」というお礼の手紙が届きました。

会員の一人、越前谷君代さんも「寄贈するたびに喜んでもらえるのがうれしいですね」とやりがいを感じています。

安全で優しい肌触りの布絵本を届ける活動は、市内外からも高く評価されています。2004年の千歳市社会福祉大会で表彰されたのを皮切りに、2008年には北海道社会貢献賞を、2014年は千歳市社会福祉協議会60周年特別表彰、2019年には道新ボランティア奨励賞をそれぞれ受賞しました。

道新ボランティア奨励賞の賞金は、地元を題材にした初めての作品「ちとせくこうのはじまり」という布絵本の製作費に充てました。新千歳空港の原点を描いたこの作品は、1ページが縦30センチ、横40センチで、表紙を含め13枚からなる大作です。市役所、市立図書館など3カ所に寄贈し、市役所や図書館では本編12枚をつないだタペストリーとして展示され、多くの市民の目に触れました。

2020年最初の作品は、布製の大型パズルです。5班に分かれ、アニメキャラクターや干支などの図柄を選び、グループ内で作るピースを分担しています。「一人でも多くの子どもたちに使ってほしい」（佐藤さん）と、会員が一丸となり創作活



一针一針丁寧に縫っています

動に励んでいます。

アットホームな 雰囲気の例会

千歳市社会福祉協議会2階の会議室が、ゆめの会の活動拠点です。毎月第2・第4火曜日の午前中に例会を開いています。会員は5代から90代の22人が在籍し、例会には毎回15〜18人が集まって打ち合わせや絵本作りをします。

障がいのある子どもを育てながら社会貢献として参加し続ける会員もいます。他方、家族の転勤、親の介護や孫の面倒を見るために、休会・退会する人もいます。積極的な勧誘はしていませんが、2019年は5人の入会がありました。

新入会員の一人で12月に加入した小



例会ではおしゃべりも楽しみの一つ

原弘子さんは「図書館で初めて布の絵本を見て感動し、ぜひ自分も作ってみたいと思いました。みなさんが温かく迎えてくれ、例会に行くことが楽しみの一つになりました」と笑顔を見せます。

1996年2月入会の鷺尾みつ子さんは「最初は自分が何を作っているのか、よく分かりませんでした」と振り返りつつ、参加したことで「仲間と一緒に作ることができて本当に楽しい」と言い続けています。2007年に入った堀京子さんも

「いつもみなさん笑顔です。こんなアットホームな雰囲気のサークルはめったにないと思います」と言います。

楽しみながら 社会とつながる活動

ゆめの会は、縫い方を教える講師



障がい児らの1泊2日のキャンプ「いけまぜ夏フェス'11 in 千歳」では地元高校生と一緒に運営をサポート

がならず、作った作品も自分の物にはなりません。それでも会員は毎月500円の会費を払い、交通費をかけて例会へ通います。

久保朋子さんは「毎日が単調に過ぎていくことが多くなったと感じた」2007年に入会。「会に入って生活に張りが出ました。老後の楽しみです」と話します。ほかの会員にも魅力を尋ねると「子どもたちが喜ぶ楽しい作品を作っていることが楽しい」、「アイデアを出し合い、会員同士で教え合うところがすばらしいと思う」といった答えが返ってきます。作品づくりは例会の時間内に終わりません。大半の作業は自宅に持ち帰り、家事の合間などに行うそうです。大迫房子さんは、イベント会場に展示されていた布絵本を見て「孫に作ってあげたい」と思い入会しました。

でも、会の方が忙しくて、孫の分までは手が回りません」と笑います。例会以外の活動もあります。毎年のように出展している「消費者まつり」では、絵本などの作品を広げて飾り付けたブースを構え、子どもたちが集まり、普段は絵本を見る

機会のない大人からも注目を集めます。

福祉バスを利用して、道内各地を訪ねる研修旅行も恒例行事です。手みやげを持つて障がい者施設などを訪問しているほか、藍染め体験や美術館見学などをして親睦を深めています。

中学校の福祉体験学習に協力し、生徒のお手玉作りなどを手伝うことがとても楽しそうで、自分が縫う以上の満足感がありました」という声も上がります。

佐藤さんは「楽しみながら、社会とつながっていることを実感できるような活動をしていきたい」と話します。

千歳にも布の絵本を

1995年7月に札幌市内にある「ふきのとう文庫」を見学し、手作

りの布絵本に感銘を受けた佐藤さん。「千歳にもこういう絵本があればいいのに」と、千歳市社会福祉協議会に問い合わせると、市内には布絵本を作るサークルはありませんでした。一緒に作る仲間を募ると、佐藤さんを含め5人がすぐに集まりました。サークル名は、活動内容が誰にでも分かる「布の絵本『ゆめの会』」と決め、その年の8月、千歳市社会福祉関係団体に登録しま

した。「当時は仕事もしていたので1、2冊作って終わりにしようと思っていたんですよ」と振り返ります。

「絵本作りのノウハウも、ボランティア経験もなく、資金もない団体」（佐藤さん）の船出です。でも集まったメンバーは皆、張り切っていました。手芸店からツケで材料を買い、次々に絵本をつくり、毎月5人で割って精算しました。最初の会費は500円。25年たった今と同じです。

その年の11月に行った初めての寄贈は、布の絵本6冊、クリスマスツリーのタペストリー2枚でした。

1996年1月、社会福祉協議会の広報誌に、ゆめの会の活動を紹介する記事が掲載されると、一気に8人が入会し、会員は13人になりました。会員も増えたことから、活動の透明性を高めるため、役員会を立ち上げ、年1回総会を開き事業報告や予算、決算の審議をするようになりました。

作品や材料の保管に苦労

ゆめの会の活動資金のほとんどは会費でまかっています。図書館や教育委員会など行政から手厚い支援を受ける他地域の団体をうらやましく思うことがある反面、「自立しているから自由に活動できている」と佐藤さんは胸を張ります。

会費以外の定期的な収入は、社会福祉協議会（社協）からの福祉団体



ちとせ消費者まつりでの会場風景。上が2012年、下が2015年

助成金があるだけです。そのほか、取り組みに共感してくれる団体などからの寄付、イオンが毎月11日に実施する「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で贈られる品物が、活動を支えています。

運営上の悩みは、専用の作業場がないことです。例会の会場は、社協の会議室を2カ月前に予約して確保しています。このため毎回、代表と副代表が、材料などを入れた大きな荷物を運び込んでいます。以前、物品庫として借りていた福

社センター内の一室が災害用の備蓄庫になったため、ミシンやアイロンの、材料などの保管場所がなくなり、材料などの保管場所がなくなり、イベントなどの展示用に会で保有する作品も年々増えています。今では、佐藤さんの自宅の一部屋がゆめの会関連の物品で埋まっています。

佐藤さんは「絵本を貸してほしいという依頼もあるのですが、貸し出しや返却などの管理が大変で、貸し出たくても貸せないことがあります」と打ち明けます。

「原点」や他団体と交流

会の原点であり、生みの親でもある「ふきのとう文庫」は、札幌市中央区で「ふきのとう子ども図書館」を運営しています。

「すべての子どもに本の喜びを！」をモットーに、長期入院やハンデキャップのある子どもたちが本に親しんでもらうためのさまざまな活動を行っています。

「ふきのとう文庫」は岩波書店で児童書を編集していた小林静江さんが、1970年から江別市大麻の自宅で身体障がい児用の文庫を開設したのが始まりで、1975年ごろから布の絵本を日本で初めて作り出した。ゆめの会では新入会員が増えると、「ふきのとう文庫」の見学に足を運んでいます。

近年は、ほかの地域のボランティアサークルとの交流も盛んです。小樽グループパンダ（小樽市）、ふれあいサークル（平取町）、むぎのめ（新冠町）、ひよこひよこ（芽室町）など、布の絵本や遊具作りに取り組む団体を訪ねて活動状況を見学し、親睦を深めました。

特に近隣のまちにある石狩市の「にじ」、北広島市の「赤い実の会」、札幌市の「布絵本の会・北野

ゆめの会」とは、4市グループ合同交流会を開くなど、4団体で情報交換をしています。北野ゆめの会は、

清田区北野在住の田部麗子さんが、千歳で布絵本を目にしたことがきっかけで2005年に誕生したので、ゆめの会にとって「姉妹のような存在」（佐藤さん）です。4団体では「文字を覚えられない発達障がいの子どものための絵本作りに挑戦しよう」とのアイデアが持ち上がり、実現へ向けて話し合っています。

佐藤さんは「一介の主婦が25年も続けられたのは仲間のおかげ。出会いは宝です」と言います。4団体の代表が集まると、世代交代についても話題に上るそうです。「後継者が育たない

サークルは解散していきます。幸い、若い会員も入ってきてくれるので、うまくつないでいきないうまくつないでいきな活動を目指しています。



優しい手触りの「ふわふわもこもこ どうぶつたっち」



初年度の作品「いないいないばあ」

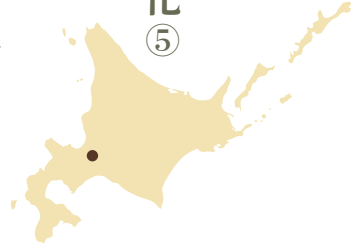


「ひとりであちでできるかな」(写真左右)も細部まで忠実に再現しています



2月25日の例会に集まった会員の皆さん

北海道の 木と文化 ⑤



日本樹木医会 北海道支部

〔札幌市〕

木を元気にする 「木のお医者さん」 木を守り後世へ伝える

天然記念物に指定されるような貴重な巨樹や名木をはじめ、身近な街路樹や庭木なども、病害虫の発生や日当たりなど環境の変化、不適切な管理により弱っていくことがあります。そんな時に、木の健康状態を診断し、治療などの手当てをする専門家が「木のお医者さん」である樹木医です。本道でも日本樹木医会北海道支部が、木を守り後世へ引き継ぐための調査研究などに取り組んでいます。

弱った木の診断や 回復処置を決めるエキスパート

樹木を弱ったまま放置していると、枯れてしまい、折れた枝や倒木によって周辺に被害を引き起こすおそれがあります。生育状態の回復や保全を担う専門家を育成し、樹木の適切



移植の実習をする樹木医会北海道支部のメンバー（同支部提供）

な保護に取り組むため、林野庁が1991年に樹木医制度を創設。日本緑化センターが資格試験を実施して認定しています。

樹木医になるためには、樹木に関する調査研究や森林の管理、公園緑地の設計などの業務経験を7年以上積み、大学などで樹病学や造林学などを履修した「樹木医補」も1年以上の実務経験が必要です。その上で選抜試験を突破し、約2週間の研修を受け、適性試験と面接をクリアしてようやく樹木医に登録されます。合格者は毎年1000人程度です。



調査研究の成果などを報告する事例発表会

樹木の診断・治療に当たっては、周辺環境の変化、生育経過など、その木の生い立ちから調べます。外観から損傷や腐朽の状況や病気・害虫の有無を確認し、必要に応じて土の状態も調べます。木が衰弱していれば、根や幹の保護、土壌改良などの必要な対策を施し、倒れる危険性があるため、支柱を設置したり、風圧を軽減するために適度な剪定（せんてい）などを行います。その結果、「花の咲き具合がとて良く、

ほっかいどうの本

（お近くの書店にない場合は、発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です）

母・遠藤道子と私

遠藤 郁子 著
北海道新聞社 発行
011-210-5744
四六判 256頁 1760円



本書は戦後の道内ピアノ界を築き上げてきたピアノ教師・遠藤道子さんの半生と介護の日々について、プロのピアニストである娘の郁子さんによって綴られています。活気に溢れていた母・道子さんが衰えていくなかで、郁子さんが考え・感じ・体験したことなど、ふたりの7年間にわたる苛酷ともいえる「最後の長いドラマ」が描かれています。

事件が起こり言葉を失った母をみて、郁子さんは「奇跡」を起こそうと思ひ「郁子のだいじなだいなお母さん」「郁子のだいじなだいなお母さん」という言葉を刷り込んでいきました。

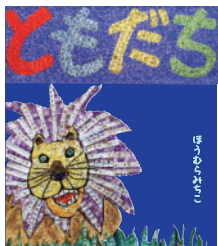
ちよつと変わった介護の仕方、

様々な演奏家たちとの交流、身の回りに起きたことなど、たくさん過ごした時間の中で道子さんと郁子さんの関係が「先生と生徒」から「母と娘」へと変化していきます。

そして奇跡は起き、90歳まで演奏した道子さん。怒涛の人生を送ってこられた道子さんと郁子さんの姿に、本書を読む者は圧倒されるながらも感動する1冊となっています。（伊）

ともだち

法邑 美智子 著
茶廊法邑出版 発行
011-785-3607
200×176mm 52頁 1200円



病気になるた時に飲む薬。それを包んでいるシートは、ごみとして捨てられています。

本書はそんな薬のシートを使っ



子どもたちが楽しめる森づくりに向けた調査
(樹木医会北海道支部提供)

もあろうです。
樹木に対する社会的ニーズは近年、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然災害の防止、青少年への環境教育、心身

勢いが回復した」など、依頼者から寄せられる感謝の言葉が一番うれしく、樹木医をやっている喜びです」と、日本樹木医会北海道支部の豊田栄支部長は言います。
会員の知恵を合わせて
最適な治療を目指す

全国で約2800人いる樹木医のほとんどが所属する日本樹木医会は、樹木医の技術や知識を生かした環境保全活動に取り組みことなどを目的に1992年に発足しました。同年、4人の会員でスタートした北海道支部は、造園業や建設・環境コンサルタントに勤める会社員、林業関係や公園整備などに携わる公務員とそのOBを中心に、2020年1月末で63人が在籍しています。

道内の樹木医は、街路樹や貴重な木などの診断を担っているほか、暴風雨の後に危険な木がないか調査をすることもあります。地域で大事にされている御神木のよくな木がある付近に道路を通す時、影響や移植方法などを検討し、移植できない場合には道路のルート変更を提案すること



市民向けに開設した樹木相談コーナー
(樹木医会北海道支部提供)

の健康づくりなど多様化しています。樹木医もまた植物学、昆虫学、気象学、土壌学、造園施工など幅広い領域の見識が求め

られます。「個人が持つ技術や知識だけではカバーしきれないので、樹木医同士の協力が欠かせません」(豊田支部長)。木の寿命は非常に長いので、治療により一時的に樹勢が回復してもその状態が続くとは限りません。治療などの記録を残し、次の処置に備えておくことも樹木医の大事な役割になります。

2月14日、札幌市内で開かれた支部の冬期事例発表会では、北海道自然環境等保全条例に基づく記念保護樹木の診断結果のほか、厚真町内にある学校林の活用検討、2019年の少雨高温による乾燥被害などが報告され、会員間で活発な質疑応答が行われました。

豊田支部長は「弱っている木を回復させる技術は、経験に基づいたものが中心で、これらを科学的に説明するためには、もっとデータを蓄積しなければなりません。今後も研修会などを積極的に開いて見識を深めると同時に、若い樹木医を育てて知見を引き継いでいきたい」と話しています。

一般社団法人日本樹木医会北海道支部——札幌、小樽、函館など道内18市町に会員の樹木医がいます。樹木に関する講演会を一般に公開し、「道民森づくりの集い」などのイベント会場でも民からの木に関する相談にも応じています。

て描かれた絵画作品集です。著者が作品づくりのきっかけとなったのは、箱にいつぱいとなった葉のシートが電灯に照らされ、宝石のように輝いて見えたことでした。この時に思い出したのは、夫の入院中に見た光景でした。それは、幼い子が車椅子に乗り、点滴をし、生かされている姿でした。この子たちは動物園にも行くことができず、辛いことや苦しいこともあるけれど、楽しいことや嬉しいこともあるというのを葉のシートで描かれた動物や植物たちが優しく伝えてくれています。

「葉」には、病氣、苦手、嫌いだといったネガティブなイメージもあります。しかし、その葉のシートで描かれた作品からは、「とてもだち」として身体や心が病んでいる方々に元気を与えるきっかけとなる温かさがあります。(須)

ウズベキスタン陶芸紀行

一よみがえるシルクロードの窯元——
菊田 悠 著
共同文化社 発行
011-2551-8078
A5変型判 80頁 1650円

本書ではウズベキスタンの伝統的な陶芸に魅せられた著者が地域

や流派ごとの特徴を紹介しています。中央アジアでは8世紀から始まった陶芸の文化が、長い歴史の中で発展し、青や黄色、茶色などの顔料を用いた陶工たちによって付けをされた陶器は、人々の生活を支え、彩ってきました。



ソ連領となっていた時代には、陶工たちは国によって決められた製品を作るよう命じられ、伝統的な手法や文様は廃れつつありましたが、そんな中でも秘かに技術は受け継がれていました。1991年にソ連が崩壊したのを機にウズベキスタンは独立し、政策によって伝統工芸は復活していきました。本書に多数掲載されている写真から様々な絵柄を見ることができ

ます。ページをめくる度に一つひとつ違う絵付けを施された陶器が現れ、伝統を守りながらも多様なバリエーションの模様を生み出す感性の豊かさに驚かされます。描き出された陶工による丹念な筆使いは、何度見ても味わい深いものがあります。(深)

新刊情報

書名の下に数字は日本図書コード(I S B N)及び雑誌コード。特記以外は税込価格。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

北の文学2019 978-4-89453-970-9
北海道新聞文学賞・短歌賞・俳句賞 編
北海道新聞社 編
A5判 124頁 1430円

絵はがきのなかの札幌
明治から戦後まで 978-4-89453-969-3
上ヶ島 オサム 著
A5判 288頁 2200円

四つの風 砂澤ビツキの創作世界 978-4-89453-971-6
砂澤 ビツキ、
井上 浩二、井上 マリエ 著
B5判 176頁 3080円

北海道民具事典 II 978-4-89453-928-0
生業・生産用具／交通・運搬・通信用具
北海道民具事典編集委員会 編
B5判 544頁 16500円

北海道の業界地図 978-4-89453-973-0
北海道大学経営学部佐藤大輔ゼミ
北海道新聞社 編著
B5判 200頁 16500円

北海道ランニング大会ガイド2020 978-4-89453-977-8
NPO法人ランナースサポート北海道 編
A5判 208頁 13200円

北海道コンサドール札幌
オフィシャル・ガイドブック2020 978-4-89453-976-1
北海道新聞社 編／コンサドール 監修
A4判 128頁 14300円

ファイターズ手帳2020 978-4-89453-978-5
北海道新聞社 編
B6判 164頁 11000円

北大総合博物館のすごい標本 978-4-89453-974-7
北海道大学総合博物館 編
A5判 240頁 25300円

北海道日本ハムファイターズ
オフィシャルガイドブック2020 978-4-89453-975-4
北海道日本ハムファイターズ 編
A4判 128頁 11000円

写真で見る平成JRの列車
朝倉 政雄 著 978-4-89453-979-2
B5判 240頁 25300円

北海道発Only Oneの家づくり
(Vol.15) 新築&リフォーム 978-4-89453-981-5
北海道新聞社営業局 編
A4判 248頁 14300円

見に行こう!
大雪・富良野・夕張の地形と地質
前田 寿嗣 著 978-4-89453-980-8
A5判 160頁 16500円

折茂武彦 弧を描く 978-4-89453-983-9
佐藤 大吾(北海道新聞)著
四六判 232頁 14300円

北海道の病院2020 16147-03
北海道新聞社 編
B5判 314頁 8800円

教材憲法判例 第5版 978-4-8329-2910-4
中村 陸男・常本 照樹・
岩本 一郎・齊藤 正彰 編著
A5判 616頁 35200円

スラブ・ユーラシア叢書14
北極の人間と社会 持続的発展の可能性 978-4-8329-8666-1
田畑 伸一郎・後藤 正憲 編著
A5判 306頁 37400円

近代中央アジアの綿花栽培と遊牧民
GISによるエルガナ経済史 978-4-8329-8669-2
植田 暁 著
A5判 310頁 82500円

時間感染症学 978-4-8329-8233-8
小林 宣道 監修／鷲見 紋子・
大友 詔雄 著
B5判 354頁 93500円

人間の内的時計 978-4-8329-8234-5
体内時計を発見した男 ユルゲン・ファンヨフの生涯
サージ・ターン著／本間 研一 訳
B5変型判 328頁 77000円

北海道大学出版会
011-747-23608
011-747-23608

オホーツク鮭物語 時代に翻弄された網元一家
佐賀 郁朗 著 978-4-906740-41-3
四六判 360頁 19800円

2021北海道キャンパスガイド 978-4-906740-42-0
亜璃西社 編著
四六判 352頁 14300円

続・よつこそ菜の花治療院へ
出会う日々 978-4-89115-972-4
山口 千穂子 著
A5判 171頁 15400円

介護員詩誌 ロスタイム 978-4-89115-973-1
北岡 けんいち 著
四六判 250頁 11000円

増訂 新版 武四郎碑に刻まれたアイヌ民族
民族の復権をめざして 978-4-89115-974-8
杉山 四郎 著
B6判 281頁 13200円

二笑亭綺譚 978-4-89115-975-5
式場 隆三郎、柳 宗悦、
谷口 吉郎、五十嵐 太郎 著
A B判 137頁 33000円

蝦夷地開拓者 栖原角兵衛 978-4-8328-2001-2
樺太場所、択捉場所を守る
寺島 伸二 著
A5判 482頁 71500円

北海道出版企画センター
011-737-1755
011-737-1755

《世界》がここを忘れても 978-4-90281-26-5
アファン女性・ファルザナの物語
清末 愛砂 文／久保田 桂子 絵
四六判 88頁 19800円

学校体育事故への備え 裁判所は何をどう見るのか
山口 裕貴 著 978-4-8738-386-6
A5判 592頁 38500円

爪句 @今日の一枚 2019 978-4-8738-387-3
北海道豆本シリーズ42
青木 曲直 著
100×74mm 232頁 5000円

文化科学の素顔 978-4-8738-388-0
フタケシマツの素顔 監訳 安メ六 講 新苗 穂高 論 山本 俊
横田 榮一、中島 茂幸、岩崎 一郎、
原子 智樹、菊地 均 著
A5判 160頁 14850円

旅人類 VOI・06 978-4-8738-389-7
吉田 類 編
B5判 144頁 11000円

共同文化社
011-251-8078

紙のよこば 東大演習林の桜
山本 俊 12・7センチ×15・7センチ
木版画

「富良野市の山部地区に非公開の東大演習林の樹木園がある。国道38号を挟み両側に広がる数百本にわたる桜の開花は誠に壮観。その西側に聳える北海道百名山の芦別岳は、夕張山地の最高峰で幅広い登山者に人気の的である。尚、ドラマ『北の国から』ファンの聖地である「麓郷の森」は、ここから直ぐ近くにある。」
全道美術協会(全道展)会友 札幌市在住